

北海道百年記念広場（仮称）の整備等に関する説明会（第3回）【議事録】

日時：令和4年2月14日（月）19:00～20:30

場所：環境生活部1号会議室（ZOOM）

1. 開会（挨拶：環境生活部文化局長）

2. 説明項目（説明：環境生活部文化局文化振興課課長補佐）

（1）交流空間構想の策定に至る経緯について

「（1）百年記念施設の主な沿革」についてでございます。百年記念施設につきましては、「北海道博物館」、「北海道開拓の村」「北海道百年記念塔」がございます。博物館と百年記念塔は昭和45年に完成、開拓の村につきましては昭和57年に完成をし、それぞれ翌年から一般公開をしております。

「（2）北海道150年に向けて」について、平成29年11月に策定した「百年記念施設の継承と活用に関する考え方」についてでございます。道では、平成30年に北海道150年の節目を迎えるにあたりまして、平成28年10月以降、有識者の方々による懇談会を開催をいたしました。百年記念施設を、今後の50年、100年先をも展望しながら、次の世代にどのように引き継いでいくのが相応しいかを検討し、今後の議論の方向性をまとめました。その中で、エリア全体の「今後の方向性」は、「施設ごとの点としてではなく、自然豊かな周辺地域を含めた空間として捉え、自然・歴史・文化体感交流空間として再生を目指す」こととし、

- ・博物館は、「本道の中核的博物館、道民参加型博物館としての機能の充実、魅力向上」を図って参ります。
- ・また、開拓の村につきましては、「訪日外国人の受入対策の強化」や「民間資金・活力の導入可能性の検討」や「代替素材を活用した修繕手法の導入検討」を行うこととしております。
- ・百年記念塔及び記念塔前広場につきましては、「安全性や将来世代の負担軽減、周辺施設との関連など、様々な観点から引き続き検討」を行うとともに、「新たなモニュメントの設置など、本道の歴史に対する思いを引き継ぐ手法も検討」することといたしたところでございます。

こちらの考え方におきまして、道民、専門家の方々の意見徴収などを行っております。具体的には、

- ・住民の皆様等を対象といたしましたアンケートの実施
- ・道民ワークショップの開催
- ・大学への出前講座
- ・専門家ヒアリングの実施

などを通じまして、道民の皆様や地域の関係団体、専門家の方々から幅広くご意見を伺った中で、平成30年9月に交流空間構想の素案を策定・公表し、パブリックコメントを経て決定をいたしましたところでございます。

続いて、平成30年12月に策定した「ほっかいどう歴史・文化・自然「体感」交流空間構想」についてご説明をいたします。

道では、百年記念施設に自然豊かな周辺地域を含めたエリア全体を歴史、文化、自然を体感し、交流できる空間として再生をし、次世代に伝えていくため、構想を取りまとめ、その実現に向けて、着手可能なものから順次取り組んでいくこととしていただいております。エリア全体の「今後の方向性」につきましては、「大都市近郊に残された野幌森林公園の豊かな自然環境をフ

ィールドに訪れる利用者の皆様が、北海道の歴史や文化、自然を五感で「体感」し、交流できる賑わいのある持続可能な空間を目指す」ことといたしまして、

- ・博物館につきましては、「更なる魅力向上」に努める
- ・開拓の村につきましては、「観光拠点や古民家再生等人材育成拠点としての活用を図る」

ということといたしているところでございます。

百年記念塔、記念塔前広場でございます。

- ・「記念塔は利用者の安全確保や将来世代の負担軽減等の観点から、解体もやむを得ないと判断し、その跡地には、新たなモニュメントを設置すること」、「周辺広場は、広く開放された交流空間とするため、利用規制の緩和に向けて検討を行うとともに、施設の安全性向上に努める」ことといたしております。
- ・また、後ほど詳しくご説明いたしますけれども、新たに設置するモニュメントにつきましては、「はるか太古から連綿と続く北海道の歴史・文化と、今日の北海道を築き上げてきた幾多の先人の思いを引き継ぐとともに、お互いの多様性を認め合う共生の立場で、未来志向に立った将来の北海道を象徴する役割を担う」ことをコンセプトといたしているところでございます。

また、50年後の道民に引き継ぐ思いとして、多くの人たちの労苦と知恵とチャレンジ精神によって築かれてきた北海道。先人に学び、感謝しながら、私たちは北海道への思いを次代へとバトタッチをしていきます。世界のどこにも例のない、北の大地の歴史と文化と自然。その素晴らしい価値を、広く、深く伝えながらさらに創造していきます。ということで取りまとめさせていただいているところでございます。

こちらの「交流空間構想」の実現に向けまして具体的に推進をするため、エリア全体を「文化観光、食」による賑わいですとか、「地域、道民」への還元といった視点から検討し、令和3年1月に野幌森林公園エリアの活用の方向性を策定いたしました。

エリア全体としては、キャッシュレス化や多言語化など「利便性の向上」を図るとともに、SNSの活用など「情報発信の強化」や「施設の充実」、「アクセスの向上」などに取り組むこととしてるところでございます。

また、博物館においては、「ミュージアムショップの充実」を図るとともに、AR、VRの導入など「新たな楽しみ方、展示方法の提供」について取り組むこととしております。

開拓の村につきましては、イベント開催やガイドの充実など「利用者が楽しめる機会の充実」を図るとともに、映画撮影の活用など「民間事業者への開放」も進めてまいりたいと考えております。

百年記念塔につきましては、「メモリアルモデルの制作」や「思い出・記録の承継」、また、「新たなモニュメントの設置」や「既存レリーフの活用」に取り組むこととしております。

百年記念広場の整備につきましては、後ほど詳しくご説明致しますが、ご覧の項目につきまして、取り組んでまいるところでございます。

(2) 百年記念塔解体の判断に至った道の考え方について

はじめに、記念塔の概要について記載をさせていただいております。

設置目的は、「本道の発展に尽くした有名無名のすべての先人に対する感謝の心と、北海道の輝く未来を創造する決意と躍進北海道の姿を力強く象徴するもの」となっております。

沿革は、ご覧のとおりでございます。現在、平成26年7月より立入禁止となっておりますところでございます。

また、規模は、高さ100m、外装材として、無塗装の耐候性高張力鋼板—いわゆるコールテン鋼—を用いて建設され、建設費は、4億9,368万円。このうち約半分が企業や団体、道民の方々からの寄附金となっておりますところでございます。

次に、記念塔の維持管理についてでございます。

昭和45年の完成から10年を経過した昭和55年以降、概ね10年ごとに建築分野等の専門家の方々による塔の現況調査を実施をいたしまして、修繕など対応すべき事項と費用をお示しした10年間の保守管理計画を策定した上で、老朽化した箇所での修繕ですとか、改修工事を計画的に実施してきたところでございます。

調査、報告につきましては、その点線の中に書いているとおりでございます。

また平成8年には、塔周辺の地上部で、錆の剥離・落下が確認されたことから、平成9年に塔の現況調査を行いまして、調査結果に基づき、平成11年度に大規模な改修工事を実施したところでございます。

平成28年度までの補修費等の合計につきましては、8億6,203万5千円となっております。このうちの2億300万円余が、平成4年度に実施した塔内部の大規模改修費、3億4,500万円余が、平成11年度に実施した塔外部の大規模改修費となっておりますところでございます。

次に、百年記念塔の現状につきまして、本年度実施した設計・施工の専門業者による調査結果につきまして、ご説明をさせていただきます。

主体鉄骨部、いわゆる内部の骨組みにあたる部分につきましては、これまで10年サイクルで修繕等を実施してきたことから、著しい損耗は見受けられない状況となっております。

続きまして、外板部でございます。

外板部に使用されている耐候性高張力鋼板につきましては、無塗装で数年間かけて表面に密で硬い酸化皮膜、いわゆる安定錆が形成され、腐食の進行が防止される特徴がございます。安定錆の形成につきましては表面が外気にさらされ、適度な乾燥と湿気が繰り返されて、風雨によって表面に浮いた錆が洗い落とされることが条件となっております。外板の表面には、安定錆が形成されているという状況であります。太字でお示しさせていただいておりますけれども、問題点は、水湿に触れたまま乾燥する機会の少ない箇所での錆の進行でトラブルが発生しているというところでございます。外板と縁アングルの接合面などに顕著な錆の発生が認められ、特に接合面の錆は、外板の変形や溶接部の破断を伴いまして、更に進行すれば、外板の剥離、落下を招く危険性があるという指摘がされているところでございます。防止策として、順次補強してきましたが、新たな箇所でも穴あきが確認されるなど、前回の調査以降、錆や腐食が進んでおり、振動や衝撃が加わった場合には、部材が落下する可能性が認められる状況と指摘を受けているところであります。

続きまして、エレベーター部は、耐用年数を経過しており、早急に更新が求められる状況でございます。また、階段部は、部分的な劣化が進んでいる箇所はあるが、著しい破損等は見受けられない状況、内部排水部につきましては、良好な環境にある。

またその他の部位といたしまして、電気ケーブルやボックス、外構部におきましては改善が必要な状況であると示されたところでございます。

道では、百年記念塔の保存・活用に向けまして、建築の分野をはじめ専門家の方々から、ご意

見を伺い、様々な観点から検討を重ねてまいりました。塔の外板の穴あきや波打ち、錆片の落下につきましては、専門家の方々の知見によりますと、主に雨水の塔内部への浸入ですとか、雨水が溜まりやすい構造に起因した腐食によるものと推定されているところがございます。塔の構造上、雨水の浸入を完全に防ぐことや、これ以上の排水対策は難しいことから、今後の老朽化の進行を完全に防ぐことは困難であるとの結論に至り、錆片などの落下が続く中、公園を利用される方々の安全を確保するためには、解体もやむを得ないと判断いたしました。安全性に関する専門家の方々のご意見について、ご説明いたします。

まず、日本建築学会北海道支部に調査委託した平成9年の外板補修調査報告書から抜粋したものでございます。「外板の錆の要因」といたしまして、耐候性高張力鋼板の特色に係る記載内容は、先ほどご説明したとおりでございます。この塔の場合、外板表面、裏面とも若干の色の差はあるものの全般的には安定錆が形成されていると言える。問題点は、水湿に触れたまま乾燥する機会の少ない箇所での錆の進行で、米国と異なり高温多雨の我が国ではこの点のトラブルが発生しやすい条件にある。

この弱点を誘因する環境が、外板と縁アングルの接合面に顕著な層状錆として現れたことである。このまま放置すれば錆は成長し続け、錆片落下という深刻な状態になりかねない。緊急の錆対策が必要であるが、錆発生要因である水分の滞留を排除しない限り、根本の解決にはならない。しかし、そのために現状の接合状態を改善することは多くの問題を抱えているところがございます。こちらの「錆の落下防止対策」につきましては、雨水の滞留の要因となっている外板と縁アングルとの接触面を離すこと、または外板のへこんだ部分を無くすることが有効と思われるが、現状の状態では、この改修を行うことは、全面貼り替え案、こちら当時で17億円と示されておりましたが、こちらに近い費用を要する。そこで本報告書では、次善の策として錆の落下防止を主目的に物理的に進行錆を落とし、今後の錆の進行を遅延させるため、浸透性の防錆塗料を塗布する案を提案したということでございます。

最後に「今後の問題点」といたしまして、「本体鉄骨の健全性、及び外板の主要部分の安定錆の状態を考えると、継続的な保守管理をすれば、今後とも長期にわたって存続することが期待できるとされているところがございます。一方、問題は、外板周辺部の錆の進行とその剥落であり、その程度を軽減する処置はとれるにしても完全に防止することは困難である。完全に錆の発生や剥落を除去するには、塔全面の外板を取り替えざるを得ないが、相当な費用を要する」と示されているところがございます。

また、専門コンサルによる調査結果におきましては、「ただちに倒壊する危険性はないものの、原状復帰した場合においても、今後、部材の腐食等による不測の落下事故を完全に防ぐことは、物理的にも不可能に近いことから、対策として、立入禁止エリアの設定、落下事故防止用屋根付き通路が必要」とされているところがございます。

また、外板の素材メーカーによる調査結果につきましては、「特定箇所に、外板パネルの穴あき、波打ち、錆片の落下が確認される。これらは、主に雨水の塔内部への浸入と雨水が溜まりやすい構造に起因した腐食によるものと推定。」これ以上の腐食進行を抑制するためには、雨水の浸入を抑制するための対策や排水の工夫等の補修対応が必要と考えられる。」と示されたところがございます。

続いて、将来世代の負担について、ご説明いたします。

道では、平成29年度及び本年度に、今後50年間に想定される維持管理経費について、設計・施工の専門業者に調査委託を行ったところがございます。本年度実施した調査結果の概要につきましてご説明させていただきます。

まず、「展望室への立入を可能とする場合」と「モニュメントとして維持する場合」の金額をそれぞれお示ししているところがございます。

「早期に措置すべき経費」につきましては、「飛来防止通路の整備」や「見学エリア内装改修」

などの必要な経費につきまして、

- ・展望室への立入を可能とする場合は、1億2,479万円、
- ・モニュメントとして維持する場合は、1,829万円となっております、

また、「経常的に措置すべき経費」につきましては、5年サイクル、10年サイクルで実施する経費の合計額は、

- ・展望室への立入を可能とする場合は、年間1,307万円、
- ・モニュメントとして維持する場合は、年間1,164万円が必要となっているところでございます。

続いて、大規模改修経費について、ご説明いたします。

過去の大規模改修の実施時期につきましては、表に記載しておりますが、外部大規模改修は、塔が完成してから29年目の平成11年度に、内部大規模改修は、塔が完成してから22年目の平成4年度に実施をしているところでございます。

こちらを受けまして、今後の大規模改修の実施時期とサイクルにつきましては、「前回の改修時期」と「経年劣化による腐食の進行具合」などを考慮をいたしまして、外部改修につきましては令和4年度から20年ごと、内部改修につきましては令和5年度から20年ごとに実施するものと算定しているところでございます。

また、経費につきましては、前回の大規模改修の内容を参考に、現状の労務・資材単価を基に算定されているところでございます。

こちらの結果といたしましては、

- ・左下の表、外部大規模改修経費でございまして、税抜き価格で4億4,200万円、
- ・右下の表、内部大規模改修経費につきましては、税抜き価格で2億6,650万円となっております。

いるところでございます。

ただいま、申し上げました、「大規模改修経費」や「経常的に措置すべき経費」などを反映をいたしました、

年次別の金額の推移は、表で表させていただいております。

- ・左側が、展望室への立入を可能とする場合
- ・右側が、モニュメントとして維持する場合

となっております。初年度及び2年度目に、外部・内部の大規模改修経費がかかりまして、その後は、毎年1千万円強の維持管理経費が続き、これが20年サイクルで繰り返されるものというふうに試算をされているところでございます。

続きまして「(6) 保存方法の検討について」でございます。

百年記念塔のあり方につきましては、様々な観点から検討を行ってきたとご説明してきましたが、幅広くご意見を伺う中で、「外壁の素材を変更する方法」や「低層部のみ保存する方法」また、「自然に朽ち果てるのに委ねる方法」につきまして、ご意見をいただきましたことから、これらにつきましても、検討を行ってまいりました。「外壁の素材を変更する方法」や「低層部のみ保存する方法」につきましては、本来の記念塔の姿をとどめていないことに加えまして、多額の経費が必要となること、また、「自然に朽ち果てるのに委ねる方法」につきましては、立入禁止エリアを拡げても、公園を利用される方々の安全確保が難しいことから、採用はいたさなかったところでございます。

(3) 百年記念広場（仮称）の整備について

まず、記念塔の解体工事費についてですが、実施設計の結果、概算で約7億2,000万円となりましたが、今後、解体跡地に新たなモニュメントの設置や広場の整備を予定していることを踏まえ、工事内容や金額の精査を行っているところでございます。

次に、新たなモニュメントについてですが、記念塔を解体した跡地には、新たなモニュメントを設置することといたしております。

記念塔に替わるもモニュメントにつきましては、先ほど申したコンセプトのもと、将来の北海道を象徴する役割を担うものとしていたしております。また、既存のレリーフや解体材の有効活用を検討するほか、耐久性や今後の維持経費にも配慮することといたしております。

これらの考え方に基きまして、より多くの方々からご提案をいただきながら、新たなモニュメントを囲む広場とともに、道民の皆様が親しまれる存在となるよう、今後、具体的な検討を進めてまいりたいと考えております。

続きまして、「百年記念広場整備事業について」でございます。

1 ページ目は、これまでご説明してきた内容と重複いたしますので、説明は省略させていただきます。

真ん中の「イメージ図」をご覧ください。

記念塔周辺の広場について、交流空間構想でお示しした方向性ですとか、道民の皆様から寄せられたアイデアを基に作成したものでございます。

左上の六角形の部分が、現在、記念塔が建っている箇所、右下が、駐車場、正面広場となっております。

まず、赤い矢印でお示ししておりますけども、こちらの「百年記念広場」を入口に、博物館や開拓の村、埋蔵文化財センターと人々が行き来し、各施設に賑わいを広げようと考えているところでございます。

また、百年記念広場につきましては、茶色の点線で囲んでおります、

現在の「百年記念塔の跡地」と「大地の手の広場」を「歴史・文化 体感・交流エリア」といたしまして、北海道の歴史・文化や幾多の先人に思いをはせる場所として整備することとし、左側に整備内容等として記載しております。上には、モニュメントにつきましては、未来志向に立った将来の北海道の象徴として「新たなモニュメントを設置」ということ。また、下には「大地の手の広場」につきましては記載をしておりますが、建造の精神を継承することとし、老朽化防止のため屋根を設置するとともに、周辺の電力需要を賄うため、太陽光発電の設置について、検討を進めてまいり考えてございます。

また、黄色の点線で囲んでいる部分につきましては、「自然 体感・賑わい創出エリア」として、右側に記載しておりますが、スキーやグランピング、パークゴルフやドッグランなど動物たちとのふれあいやシーン・四季を通じた体験・遊びの場の提供を行うとともに、噴水や水辺の創作、桜の植樹など草花による彩りの創出、キッチンカーによる飲食物の提供や、ファーマーズマーケットの開催など、民間の知恵や活力も活用しながら、賑わいの創出を図ってまいり考えているところでございます。

続いて、広場の整備スケジュールについてでございます。

記念塔の解体につきましては、今年度、実施設計を行ったところでございますが、来年度、解体工事に着手をした場合、工事に要する期間は、令和6年度の前半までとなる見込みとなっております。

こちらの工事スケジュールを踏まえまして、新たなモニュメントの設置を含みます広場整備につきましては、来年度、事業手法に関するサウンディングの実施などを行って、整備概要を作成し、令和5年度に事業計画等の策定、令和6年度の記念塔の解体工事終了後に、広場の整備に着手するというスケジュールを予定しているところでございます。これらの整備に必要な財源につきまし

ては、国の支援ですとか、補助制度、P F I、クラウドファンディングなど民間の資金・ノウハウなどを最大限活用するとともに、今後の維持経費にも十分に配慮した上で、整備を進めたいと考えております。

3. 質疑応答（質問：チャット、回答：口頭（環境生活部文化局文化振興課課長補佐））

※口頭による回答順に掲載

2月10日に知事より記者会見がありましたが、解体の説明会なのか、それとも、この説明会を通じて解体を考え直すことがあるのか、お伺いいたします。

地域や大学の説明会は解体することの説明会であったが、道民の解体反対の意見は受けないとのことでしょうか。

説明会についてですが、道では、これまで記念塔解体の判断に至った考え方や解体後の跡地を含む今後の広場整備の方向性をお示しした「交流空間構想」について、様々な機会を通じて説明を行ってきたところであります。地元住民の皆さまの思いや、存続を求める団体の方々の主張を真摯に受け止め、改めて、道の考え方について説明する場を設けることとし、この度、3回にわたりオンラインによる説明会を開催することとしたところでございます。

今回の説明会におけるご意見も含め、塔の解体に関する道民の皆様のお思いやご意見に対しては、今後とも真摯に対応し、道の考え方について、ご理解いただけるよう努めてまいります。

広島原爆ドームは昨年建物保存のための5回目の工事を終えている一方で、百年記念塔は解体を判断されています。その理由は経費が全てでしょうか。

広島原爆ドームとの比較についてのご質問ですが、設置目的や構造、使用している資材、管理方法等が異なるため、一概に比較することはできませんが、資料の中でもご説明いたしましたが、百年記念塔は、乾湿を繰り返すことにより、安定錆を形成させ、腐食の進行を防止するという特徴を有する耐候性高張力鋼板を無塗装で外板に使用しているところに、広島原爆ドームとの大きな違いがあるところでございます。

専門家の方々のご調査結果においては、外板の表面など全般的には安定錆が形成されているものの、外板と縁アングルの接合部分は、複雑な形状から、雨水などの水分の滞留により、経年とともに錆が増大、剥落していることや、完全に錆の発生や剥落を防止するためには、塔全面の外板を取り替えるを得ないとの指摘がされているところであり、道といたしましては、公園利用者の安全性を確保する観点から、また、将来世代への負担軽減の観点から、解体もやむを得ないものと判断したところです。

北海道百年記念塔は有形文化財としての文化的価値があり、幅広い専門家の意見を聞き、近現代建築の共通の課題である修理と改修の問題について最善の検討を望みます。取り壊すと歴史的にも取り返しがつかない結果に至ることを危惧します、と指摘（日本建築学会北海道支部歴史意匠専門委員会有志）しています。北海道庁は北海道教育委員会に北海道百年記念塔の文化財としての調査・研究を依頼し価値評価を行ったのでしょうか。回答を求めます。

法隆寺五重塔は建立以来およそ1350年にわたって各時代の人々の尽力と建築技術によって現存していますが、北海道庁は日本の建築技術を現代に受け継いだ北海道百年記念塔を保全し安全を確保する技術が現在および将来にわたって皆無と考えているのでしょうか。回答を求めます。

文化財に関する検討の経緯などについてであります。百年記念施設の今後のあり方について、有識者による懇談会や検討会において、幅広く御意見を伺う中で、記念塔に関しては様々な考え方があり、文化財の保存活用等に専門的な知識を有した方から、「50年近い歴史を刻んできた貴重な文化資源として残すべき」とのご意見があったところでございます。

このため、道といたしましては、記念塔を文化資源として保存・活用する可能性について、道教委を含む庁内関係課で構成する検討会での議論はもとより、専門家の方々の知見も伺いながら検討を行いました。塔の構造上、完全に錆の発生などの老朽化の進行を防ぐことは困難であり、解体もやむを得ないとの結論に至ったところであります。記念塔に関しては、その歴史的、文化的価値は否定しないものの、公園を利用される方々の安全確保や将来世代への負担軽減等の観点から、文化資源として保存・活用することは難しく、解体もやむを得ないと判断したところでございます。

2018年12月公表の「交流空間構想」は、行政執行プランとして議会説明され、予算案は議決されましたが、「解体すること」の決議それ自体は現在まで存在していないと考えられます。こうした曖昧な議論のままでは、将来世代に禍根を残すことにつながります。そのため、北海道として「解体すること」の単独決議が必要ではありませんか。回答を求めます。

道では、記念塔のあり方の検討に当たり、様々な分野の専門家の方や有識者のご意見を伺うとともに、道民の皆様から寄せられた様々なご意見を踏まえ、十分に時間をかけて慎重に検討を重ねたところでございます。その上で、「交流空間構想」の案を作成し、道議会にご報告申し上げ、パブリックコメントを経るとともに、多くのご議論をいただき、決定したところであります。その後、交流空間構想の実現に向けた取組として、記念塔の解体に係る実施設計に要する予算など関連予算については道議会に提案し、議決をいただいているところでございます。

6年前、平成28年から百年記念塔の今後の方向性について検討しているということで検討内容に将来世代の負担軽減とありますが、具体的な策などは考えているのでしょうか。6年という時間の間にどのような負担軽減策が出てきたのでしょうか。また考えられていないのであれば今後の方向性として定まってない若しくは考慮の余地があるのなら、計画はやり直したまたは中止という判断にはならないのでしょうか、お答えください。

将来世代の負担軽減についてであります。資料の中でもご説明をさせていただきましたが、今後50年、モニュメントとして維持していく場合などの維持管理費として30億円近い多額の経費が見込まれることから、こうした費用を将来の世代の負担とにならないよう対応していくと考えたところでございます。

百年記念塔の解体はどのように周知して道民の了解を得ていると考えているのでしょうか。ほとんどの道民は認識しているとは思えません。

道では、記念塔のあり方の検討にあたり、道民ワークショップや出前講座、アンケート調査などを通じて、道民の皆様から寄せられた様々なご意見を踏まえ、十分に時間をかけ慎重に検討を重ねました。交流空間構想の策定の際には、議論の経過も含め、広く道のホームページで周知するとともに、北海道商工会議所連合会などの経済団体や北海道市町会、北海道町村会をはじめとする各自治体、地元の市役所や区役所に加え、地元の町内会の方々や記念塔を校歌・校章に用いている学校

に対して説明を行ってきたところでございます。

第1回、第2回での質疑応答が公開されていないのはなぜですか。

第1回及び第2回の質疑応答につきましては、今後、説明会においてお答えできなかった質問への回答も含め、お示しすることとしており、現在、道のホームページへの掲載に向けて事務を進めているところでございます。

北海道庁として「スマート農業」、「society5.0」の実現に力を入れているかと思いますが、5Gの送受信の電波塔として検討はしなかったのですか。百年（記念）塔を現状のままではなく、骨組みの形で電波塔として使えるのではないのですか。そういう発想は無かったのですか。

道では、記念塔を保存・活用する可能性について、専門家の方々の知見も伺いながら、様々な観点から検討を行うこととし、交流空間構想でお示した「展望室への立入を可能とする場合」や「モニュメントとして維持する場合」に加えまして、「外壁の素材を変更する方法」や「低層部のみ保存する方法」、「自然に朽ち果てるのに委ねる方法」やご質問にありました「骨組みの形で残す方法」などにつきましても検討を行ってまいりましたが、記念塔の形状が大幅に変わってしまうことや安全確保が難しいことなどから採用しなかったところでございます。

開拓の歴史の改ざんのモニュメント建設には反対いたします。開拓者である道民の祖先の苦労を残すのが重要だと思います。

道では、安全性の観点などから、やむを得ず、記念塔を解体することといたしますが、記念塔解体後の跡地には、先人の思いを継承する未来志向のモニュメントを設置することとしており、この記念塔に替わる新たなモニュメントは、はるか太古から連綿と続く、北海道の歴史・文化と今日の北海道を築き上げてきた幾多の先人の思いを引き継ぐとともに、お互いの多様性を認め合う共生の立場で、未来志向に立った将来の北海道を象徴する役割を担うものとして、今後、より多くの方々から提案をいただきながら検討を進めてまいりたいと考えてございます。

北海道の解体の提案に対して道議会でどのような議論がなされ、議会採決がなされたかがわかりません。会派によっては存続を示した会派もあったのでしょうか。定量的にどのような採決がなされ解体に突き進んでいるのか開示を求めます。

これにつきましては、道議会での議論についてはございますが、資料の中でもご説明申し上げました、平成30年9月に交流空間構想の素案を道議会の環境生活委員会に報告し、その後多くの議会議論をいただき、平成30年12月に決定をいたしました。

また、今年度行った実施設計の結果につきましても議会に報告申し上げたところでございます。

次も同じような意味のものを作るのなら記念塔は残せないのですか。老朽化は道の怠慢で起きたのではないのでしょうか。

こちらにつきましては、記念塔の維持管理についてでございますが、資料でもご説明させていただきましたように、道では昭和55年以降、概ね10年ごとに専門家の方々による老朽化の状況調査を実施し、保守管理計画を策定したうえで、老朽化した箇所の修繕等を毎年計画的に行うとともに、平成4年には塔の内部を、平成11年には塔の外部の大規模改修工事を行ってきたところでございます。

道といたしましては、施設・設備の耐用年数や老朽化の状況に応じた修繕を行うなど、塔の所有者として適切な維持管理に努めてきたところでございますが、専門家の知見によりますと、完全に錆の発生や剥落を除去するには、塔全面の外板を取り替えざるを得ないなど、塔の老朽化を防ぐのは困難なことから解体もやむを得ないと判断したところでございます。

交流空間構想の実現に向けて、キャッシュレス化、多言語化、SNSの活用。もろもろ書かれていますが、今すぐできる事ばかりなのに、どうして何一つやっていないのですか。

交流空間構想の実現に向けた取組についてでございますが、道では、構想の策定以降、資料でもお示した多言語化、SNSの活用などにつきまして、順次取り組んでいるところであり、今後におきましても野幌森林公園エリアが人々が行き来し賑わいが広がる広場として多くの皆様にご利用いただけるよう各取組を進めてまいる考えでございます。

新しいモニュメントの話は道民の了解を得ていますか。

記念塔の跡地に設置することとしている新たなモニュメントにつきましては、資料にもありますとおり、このコンセプトを交流空間構想に記載しております。

その具体的な内容につきましては、今後、民間からの提案や、道民の皆様からのご意見を幅広くお伺いしたうえで決定してまいりたいと考えております。

同様に平成29年10月13日付け「平成29年度北海道百年記念塔維持管理計画策定調査報告書」があるのに、12ページで「平成29年度および～設計・施工の専門業者に調査委託」として、ぼかした書き方をするのはいかなる意図ですか。7ページの一覧に入れるべきではないですか。またこの調査の委託業者が同時に行われた解体実施設計の業者と同じであることも示すべきではないですか。

道では、塔の現況や今後50年間に想定される維持管理経費などについて、平成29年度と令和3年度に設計施工の専門業者に調査委託を行ったところでございます。

なお、当該調査を受託した業者と、別途行った記念塔の解体に係る実施設計を受託した業者は同一となっております。

将来のツケとか負担とか言いますが、具体的にどのような負担ですか。今の私達が負担したらいいと思えますか。

経費の負担についてであります。建設以来、道民の皆様には毎年の維持費はもとより、大規模修繕に係る経費をご負担いただいていたところであります。また、資料の中でもご説明させていた

だきましたが、今後50年、モニュメントとして維持していく場合などの維持管理費として30億円近い多額の経費が見込まれることから、こうした費用を将来の世代の負担にならないよう対応していくという考え方でございます。

この外板部は、耐候性高張力鋼の使用によりメンテナンスフリーを売りにし、北海道はそれに乗り採用したのではないのでしょうか。つまり騙された、もしくは悪い言い方をすれば裏取引があったのでは無いのでしょうか。

外板部の素材についてでございますが、記念塔の外板に使用している耐候性高張力鋼板、いわゆるコールテン鋼は、適度に乾燥と湿潤が繰り返されることにより、安定した錆が形成されるものであるが、この分野の専門家である社団法人日本建築学会北海道支部に対し、平成9年に道が依頼した調査結果によると、塔の外板と内側の接合面など、雨水が浸入し、溜まりやすく、水分に触れたままで乾燥する機会の少ない箇所において錆や腐食が進行し、錆片の落下等を招いているものと指摘されているところでございます。

平成4年頃ステンレスの水切り板が設置されたとの事ですが、コールテン鋼に対してステンレス板を付けた事が不適切だったのでは。もし取り付けに使用したビスがステンレスの場合は、ビスで開けた穴からより早く鉄を腐食させて効かなくなるのは、現場で作業する人間には知られてる事実です。ステンレスは鉄を錆びさせる特性があります。家庭でもステンレスの流台の上に缶詰を置いとくとすぐ錆びますよね、現場の人間は鉄に対してステンビスは安易に使わないのです。コールテン鋼が錆をもたらしたみたいと言われてますが逆なんです。ステンが錆させてるんです。ステンレス部品は早めに撤去などの対策が必要です。しっかりやるべき事をやって長く北海道百年記念塔を愛してもらいたいことを願います。壊す事に反対します。補足ですが、コールテン鋼は錆びさせないために錆びさせて保護膜を作ってるのでステンなど付けると保護膜を壊しそこから錆が進行するものかと経験上で思うのですが、しっかり検証してください。

コールテン鋼についてでございますが、先ほどもお答えさせていただきましたが、記念塔の外板に使用している耐候性高張力鋼板、いわゆるコールテン鋼は、適度に乾燥と湿潤が繰り返されることにより、安定した錆が形成されるものでありますが、この分野の専門家である社団法人日本建築学会北海道支部に対し、平成9年に道が依頼した調査結果によると、塔の外板と内側の接合面など、雨水が浸入し、溜まりやすく、水分に触れたままで乾燥する機会の少ない箇所において錆や腐食が進行し、錆片の落下等を招いているものと指摘されているところでございます。

記念塔解体とその後の新構想、モニュメント作成の目的に、財政確保の側面は少しも含まれておりませんか。中央が財政支出を渋り、地方に財源が流れにくい現状を打破する一つの策として、記念塔に目を付け、解体を行い、その後新構想のモニュメント等の事業で資金調達を図ろうという意図が感じられます。不十分な説明や調査により道民を欺き、本心の目的は財政確保にあるように考えられますが、いかがお考えになりますか。北海道に生まれ、北海道で育った一人の道民、大学生として、百年記念塔の維持と継承を心からお祈り申し上げます。

こちらに致しましては、今回の記念塔解体の判断に至った理由といたしましては、塔の老朽化の現状を踏まえ、なにより公園を利用される方々の安全を第一と考えたものであり、ご指摘の資金調

達や財源維持を図ろうというものではありません。

【説明会で未回答の質問等】※質問については、回答を作成の上、ホームページで公表

先ずはこの様な説明会を開いてくれたことの感謝致します。私は札幌生まれ札幌育ちで、先月、還暦を迎えた者です。今日は参加していませんがアイヌ系の知人と私の考えを話させていただきます。

結論から申し上げますと、百年記念塔は時間を掛けてでも、存続させる方策をもう一度、考えるべきだと言う事です。理由として、現在、様々な百年記念塔解体に対してネットで配信され、多くの人が百年記念塔解体に疑問を持っています。その一つに、アイヌ協会やそれを支援する人たちの圧力で百年記念塔が解体されるのだろうと思っています。私は子供の頃に百年記念塔にはアイヌの人々に対して配慮が欠けているのではないかと。後々に問題になるだろうと一般公開されてからの一連の流れをみても、その様に思っています。文化遺産と成りえる百年記念塔が老朽化の為に50年で解体されるなど前代未聞の話です。去年、鈴木知事が「現在もアイヌの人たちが、いわれのない偏見や差別、心無い誹謗中傷やいじめにあって、傷ついている」と言われていました。しかし、私は60年間、父や私の知人にもアイヌ系の人はいましたが、偏見による差別など見た事も聞いたこともありません。当然と言えば当然です。アイヌの血が入っている事は差別の対象ではないからです。逆にアイヌの血が入っているという事で私の知人は自慢していたくらいです。しかし、百年記念塔が解体されたら「これから、アイヌの人々が開拓の文字を消す為に、道庁に圧力を掛けて、百年記念塔を解体させたという、いわれのある理由で軽蔑の目でみられると思います。差別がなかったものが、新たに差別、いや様々な、軋轢が起こればと思います。これは私のアイヌ系の知人も危惧していることです。これは新たな差別を作り出す為に敢えて、百年記念塔を解体するのではないかとしか思えません。それでは共生社会の理念が崩れると思います。百年記念塔解体は、次世代に様々な軋轢を作り、負の遺産を残すという事です。

昨年、新日鐵住金株式会社の「百年記念塔腐食状況調査報告について」を開示請求いたしました。が、全部黒塗りで全く内容がわかりません。個人情報とおっしゃいましたが、調査結果の結論までもが個人情報なのでしょうか。

記念塔は江別・厚別を中心に広範な地域で50年にわたり景観を形成しています。記念塔を解体することはその景観を壊すことを意味します。記念塔が建設された当時、近隣では大規模な団地が形成され、多くの人が記念塔に対して思い入れがあります。記念塔の解体はそのような人たちへ喪失感を与えます。心のケアも必要です。それにはもっと丁寧な説明と時間が必要です。例えば、札幌のテレビ塔や東京タワーをお金がないから解体しますと言って賛成される方は少ないのではないのでしょうか。これらは維持するためにきちんと修繕されていますが、翻って記念塔はどうでしょうか。道が説明しているほど多くの人が修繕してきたと感じていないと思います。本来、地域に根差したランドマークをなくすことは難しいはず。多くの人への周知と議論なくして記念塔の解体はあり得ません。残念ながら、道の行っている近隣の町内会や学校への説明は不十分です。たとえ町内会長に説明しても、その内容が町内会で共有されておられません。また、学校への説明も校長への説明では、その学校の児童・生徒や保護者へは伝わっていません。解体が既定路線への単なる「アリバイ」づくりになっており、一方的な説明に終始し、意見や議論をするようなものになっていないと感じます。もっと、道や市の広報を通じて説明する、知事が会見を開いて発表しその内容をメディアを通じて発表する等もっと多くの人に説明し、時間をかけて議論されてはどうでしょうか。記念塔が解体されることを知らない人が多くいるのが現実です。現状では安全性が担保されないとのことですが、外装の部品が落下したのは大規模な台風で強い風の時であり、通常は一定の範囲を立ち入り禁止にすれば、危険はないはず。ことさら危険性を強調して、解体を早めようし

ている意図を感じます。

記念塔解体後にモニュメントを設置しても失われた景観は元に戻りません。失われる景観に対して道はどのように対処されるのでしょうか。近隣の学校では校歌や校章の中に記念塔が表現されています。また、江別市のカントリーマークの中にも記念塔が表現されています。もし記念塔が解体されても、これらはそのままにされるのでしょうか。だとすれば無責任です。記念塔の映像やパネル等を学校に送っても失ったものへの代替にはなりません。これらの変更作業等は道の責任で行うのが筋だと考えますが、これらへの対処をどのように考えています。ちなみに札幌市に確認したところ札幌市が主体となって校歌・校章の変更はしないとの回答でした。

有識者への意見を聞いた中にヘリテージマネージャーとありますが、専門家ヒアリング実施先にあるヘリテージサロンのことを指しているのであればいるのであれば誤りではないのでしょうか。ヘリテージマネージャーは建築士等の有資格者で60時間の講習を受けた歴史的建造物の専門家ですが、ヘリテージサロンのは大工等の任意参加の技術者集団で専門家とは限りません。ヘリテージマネージャーとヘリテージサロンを混同されてませんか。また、専門家ヒアリング実施先に札幌市立大学の羽深名誉教授が入っておりますが、北海道の建築審査会の会長や赤レンガ建築賞の審査委員長を務めており、ヒアリング先としては第三者的視点に欠けるのではありませんか。

以上のことから、有識者選定の根拠を示してほしいです。

今現在までに、解体反対の意思表示は何件来ているのですか。総件数のうち、何パーセントを占めていますか。

- 1 北海道庁環境生活部文化局は北海道文化振興条例（総則・趣旨「文化の振興に関する道の責務を明らかにするとともに、文化の振興に関する道の施策の基本となる事項を定めるものとする」）にもとづく業務を行う部署なのでしょうか。回答を求めます。
- 2 現在工事中の旧北海道庁本庁舎（赤れんが庁舎）は北海道百年記念塔よりも80年以上前に建てられた煉瓦造であり耐震性に課題があり、屋根からの落雪で歩行者への安全面の問題が指摘されています。北海道庁は「北海道百年記念塔は利用者の安全確保」を一つの理由あげて「解体もやむを得ないと判断」したのは旧北海道庁本庁舎（赤れんが庁舎）と根本的に何が違うのでしょうか。回答を求めます。

専門家によりますと記念塔の骨格部及び基礎部は格別に頑強なつくりになっているそうです。石山北大名誉教授なども塔の耐久性に問題なしと判断されています。当初、記念塔の寿命は何年の目標で設計、建設されたのですか。

北海道議会 2017 9.11 平成29年第13回環境生活委員会会議録-09月11日-01号で、百年記念塔の維持費について、高見文化振興課長の継続した場合の回答ありますが、「…毎年、維持管理費として800万円程度の費用が生じるほか…」と発言されてます。毎年の維持管理費が800万円。現在は6000万円との試算が出てますが、何故この大きな差が出てきているのでしょうか。また、何故、当時は毎年800万と試算したのでしょうか。当時の800万の維持管理の方法と6000万の維持管理の方法論は当然ながら変わると思います。

その試算方法は、伊藤組土建とドーコン、それと道の専門家会で概算を決めたと聞いてますが、2017年当時、伊藤組土建が維持管理を担っていたのか。ドーコンが担っていたのか。

水処理を徹底して設計しないとコルテン鋼は駄目なんです。と設計者の井口健さんはインタビューで仰っています。道は、伊藤組土建とドーコンの検討会で、塔の設計上、これ以上の水処理は出来ないと回答してます。設計時に既に設計者井口さんはコルテン鋼は水に弱いと知り、最善の設計で水処理をした塔です。しかし当初の設計とは違う構造を採用しています。

百年記念塔はモノコックではなく、鉄筋トラス構造となりました。この方針の変更の過程は不明です。

↑これが原因か。

コルテン鋼は…水の処理が悪いと酸化被膜が上手にできずに普通の鉄と同じく腐食し穴が開いてしまいます。

↑今の状況です。

質問1. 2020年10月26日に、我が国は首相所信表明で2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを宣言しました。また2015年9月に、国連加盟国が採択した持続可能な開発目標（SDGs）実現は将来世代への負担軽減になります。この観点から、100年記念塔は維持管理を適切におこない、長寿命化することで、CO₂排出削減に貢献できます。しかし、解体工事をおこなう現状方針では多大なエネルギー排出となり、北海道は国や全世界の方針に反する政策を執行することになりませんか。回答を求めます。

質問2. 北海道庁には建築士や建設技術に精通した優れた職員が多数在籍しています。今日までの検討プロセスでは、庁内の優れた人材資源が生かされているとはいいいがたいと思います。北海道の大切な建造物（100年記念塔）の評価を行うためには、庁内の優れた人材を活用し、組織横断的なプロジェクトチームを編成し万全を期すべきではありませんか？回答を求めます。

老朽化はしていないとの調査があるようですが、第三者委員会を設けてはいかがでしょうか。

北海道百年記念塔は、北海道を「開拓」された皆様の思いを伝えるためのモニュメントです。新モニュメント構想では、この「開拓」の言葉が抜けています。今回は設計者である井口健さんも参加されていると思います。井口さんの思いを尊重しているとは思えません。

記念塔は建築基準法12条に定めるところの建物の敷地及び構造、昇降機についての定期報告の対象となっているのか。なっているのであれば過去に行われた補修などは、その定期報告に基づくものであるのか。

私には北海道は「道は丁寧な説明をしてるべ、議案は道議会を通過させた。解体の権限は行政に（浸透した共産主義者や知事の鈴木直道にある）おまえら日本人は黙ってる！丁寧な説明をしてやるから文句をいうな」と聞こえる

新モニュメント構想に、最初から井口健さんを参加させなかったことに悪意が感じ取れます。

北海道の未来を左右する重要なオンラインミーティングなのに、こんな聞き取りにくい状態で行うとは何のつもりですか。真摯な態度が見受けられません。そんな態度だから道民の反対が多いと思います。北海道庁はちゃんと北海道民を見て仕事してください。

解体反対。全くもって解体がやむをえないとは思えません。

新しいモニュメントがどのような形で大きさを誰の設計でどんな意味を持つのか、設計者から計画、金額まで決まってから百年記念塔の解体を考えるべきです。なぜなら、今されている説明と全く違うものが計画されたり、実際何も建たない可能性も否定できず、解体してからでは取り返しがつかないからです。解体を反対している自分としては、周知もごく一部で大きく取り上げない道のやり方が全く信頼出来ませんので、せめて今からでも確実な方法を取って下さい。

屋外構築物の緻密な酸化被膜熟成は困難。作業者の解体時の安全確保のため早急に判断し、解体すること。

百年記念塔は単なる建造物ではありません。

北海道民への徹底周知の方法は不十分だと思います。

解体に当たって何名に調査を行いどのような結果であったか公開はされていますか。

1のスライドの2で、エリア全体区分の所で、「老朽化などによる利用者数の減少」とあるが、老朽化が原因だと分析したのは誰で、根拠はなんだったのですか。博物館区分では、「機能強化や更なる魅力向上」とありますが、今までできなかったのに、どうしてこれから急にできるという話になるのですか。

新しいモニュメントをつくるのですか。知りませんでした。驚きです。必要ないのでは。北海道百年記念塔を維持した方が良いのでは。

説明会を開いて道民の意見も聞きましたと言うアリバイ作りですか。そうでないのでなら、ここでの質問を検証して答える必要がありますね。

解体の了解は道民にきちんと取られていますか。

この説明会以前にきちんと解体説明会は行いましたか。

百年記念塔について案内板が、今は新しくなっているが、昨年まで木枠などがボロボロでホワイトボードのようになっていて、表示が薄くなり見えなくなっていました。とても維持管理をしているとは言えませんでした。いつから案内板をそのままにしていたのでしょうか。案内板を最後にメンテナンスしたのはいつなのでしょう。

記念塔は建築基準法12条に定めるところの建物の敷地及び構造、昇降機についての定期報告の対象となっているのか。なっているのであれば過去に行われた補修などは、その定期報告に基づくものであるのか。記念塔の解体を最終的に決定した空間構想の検討会議の3回にわたる議事録を入手しましたが、有識者の講話に耳を傾げるだけで「検討」の痕跡が見えませんでした。そこで質問ですが、記念塔を残す、残さないという二つの選択がある中で最終的に「解体もやむを得ない」と判断したのは、どの役職者で、それは何年何月のどういう場面だったのですか。

私はつい先日知りました。こんな大事なことを何故こっそりと進めているのでしょうか。不信感しかありません。

説明会資料の7ページで、これまで実施してきた管理計画が紹介されていますが、平成26年1月31日付けの「平成25年度北海道維持管理計画策定調査報告書【第5次】」を隠すのはいかなる意図ですか。この5次計画の方向性に従って現在記念塔が管理されていることを踏まえれば「隠匿」との批判も免れません。

北海道札幌生まれ、旭川育ちで札幌在住の50歳代です。今の職場でもコミュニティでも厚別の地元の職員でさえも、未だにこの記念塔の解体のことを知らない人がいる現状で解体を進めるなど、行政として道民を無視し過ぎていますがどう思っているのでしょうか。

解体が決まっているのですか。知りませんでした。今一度調べてほしい。

北海道道議会の新設予算は1,600億円。今年の道予算は大幅に余している。北海道は百年記念塔を解体したくて仕方ないですね。

近年百年記念塔の保守費用が大幅に削減された理由は。保守をきちんとすれば維持出来ると思います。

金が勿体ないから先人のシンボルなんて壊せですか。早い話がそういうことですね。

道民にとって大事な塔なので、杜撰な改修しないでまともな改修工事すればいいだけです。安易に壊すことは反対します。

記念塔こそ50年後の道民に引き継ぐべき物ではないですか。伝統や歴史を繋ぐことは容易ではありません。加えてこのゴタゴタな現状です。記念塔なしで先人たちの思いを継いでいくことは不可能です。

R3年道議会第三回定例議会の滝口信喜議員（室蘭）の質問と、庄巻は今年R4第1定の道見議員（札幌市北区）の「なぜ道はそれほどまでに解体にこだわるのか」、「道の考え方を説明する説明会はない」、「よせられた意見に向き合う事すら拒否する道の態度は問題だ」。

アリバイ作りの説明会ではこの説明会は開催する意味があるとは思えません。

説明会資料の10ページで「塔の外板の穴あき、波打ち及び錆片の落下は、主に雨水の塔内への浸入や雨水が溜まりやすい構造に起因した腐食によるものと推定されます」とありますが、この問題については、平成9年調査報告書が11pの提示した「次善の策」が実際には効果的であり、平成23年調査報告書は「平成11年の大規模改修によりほぼ良好な状態を維持している」として「今後10年間（平成33年まで）の措置」の基本方針としています。このことから、指摘された穴あき等の問題の起因は塔の構造ではなく、むしろ維持管理にあるのではないですか。記念塔の所有者として4次計画で示された管理項目を平成24年以降完全にかつ継続的に実施してきましたか。道では記念塔の完成から10年を経過した昭和55年以降云々という紋切り回答ではなく、具体的にお答えください。

きちんと文化財指定して文化財保護法により百年記念塔を保存することこそ大切では有りませんか。

老朽化で維持管理にかかるお金の問題ですか。それなら道の無駄を削ってでもその経費を捻出して下さい。最悪職員削減してでも残す意味の方が大きいと思います。

ウポポイの予算から記念塔補修費に回してください。

ウポポイの予算並みに保存予算を確保して下さいませ。

将来の負担と資料に描いていましたが、具体的にどのような負担なのですか。費用なら有形文化財申請すれば、国からお金が出ますよね。「老朽化で断念」との一点張りの答えでですが、30億円出せば50年保持できる見積もりを立てている以上、詭弁としか思えません。

落下しない様に修繕したらよいのであって、解体ありきで説明していますよね。建造物は必ず劣化はします。修繕出来ることを無視して、「劣化」は当たり前を、こりゃダメだって言ってるだけですよね。

多様性を理由に解体との事ですが、当時の方々は多様性を意識されてなかったという事でしょうか。設計者井口健氏は、北海道に関わる開拓者及びアイヌ民族に敬意を表し、慰霊を込めたデザインとしたとされてますが、北海道は多様性を理由にアイヌ民族を差別し、北海道開拓に従事した開拓者の慰霊碑も費用がない理由に破壊をするという事です。慰霊碑を費用面で破壊するなど世界的に見ても恥極み。道民に謝罪と賠償を求めます。

私の先祖は明治の時代に北陸地方から石狩川のそばに入植し大変な苦勞をして開墾しました、お米が取れるまで50年もの歳月がかかったそうです家の中にも雪が積もる様な劣悪な環境の中で北海道の大地を開拓してきたのです、そんな先人達の思いのこもった北海道百年記念塔をなぜ大切に道は後世に伝えてくれないのですか。壊してしまったらおしまいです。まずしっかり維持管理する事に全力で取り組むことが道の先人や子孫に対しての責任なのではありませんか。壊す壊すではなく北海道百年記念塔を後世に残すよう何卒宜しくお願い致します。

それを言ったら、北海道庁舎だって劣化してますよ。

道職員の先輩方も関わった偉業を、後輩であるあなた方が破壊する事に良心の呵責はないのでしょうか。党建設の費用に少なからぬ道民の先達の浄財がふくまれているのに、それを理由を付けて意固地に破壊するという事が信じられません。

どんなに優れた物でも適切なメンテナンスを怠ると劣化も進みます。落下物は適切なメンテナンスを怠ってきた行政の責任で、北海道百年記念塔の塔体は健全です。

設計不良の負担を道民に求めるのは筋違いだと思いますがいかがでしょうか。

メンテナンスをしていなかったのでしょうか…。

きちんとメンテナンスをしていたのでしょうか。

塔の解体論について、「多額の維持管理費とアイヌ民族の問題がセットとして扱われ、新聞・テレビインターネットにより解体を印象付ける報道が多く見られました。」という記事を見かけました。

どんな建物でも、建てられた瞬間に老朽化は始まる。歴史に残したい大切な建物なら、文化財登録してでも残そうとするよね。

劣化を理由に解体するのは理由としてはいかなものかと思います。劣化の無い施設などどこにも有りません。

道民同行の上、見積調査などを取り進めて下さい。道民の大切な物を勝手に壊さないでください。道民の信任を得てると思わないでください。

道庁は百年記念塔を50年保全するための見積もりを30億円と計上しているのに、前回の説明会で「老朽化で有形文化財登録を断念した」と答えましたよね。見積額を計上できるのになぜ保全を断念。

米国とは違うといいますが、この鋼材はどこメーカーのですか。また北海道は比較的湿度は低めだと思うのですが。日本製鉄の資料をきちんと公開していただけないでしょうか。

この責任者は知事ですか。

こんな大切な説明会に、何故鈴木知事は参加されていらっしゃらないのですか。

参加者の声を聞かない。今の北海道の姿勢そのものです。質問、意見は受け付けるけど何も対応しない。

老朽化で解体とか老朽化で倒壊の危険などと言いますが、外側を囲ってきちんと検査し補修したらいいじゃないですか。エッフェル塔やピサの斜塔の存続の技術を学べば、倒壊など起こりません。最初からこの記念塔が倒壊の危険などないと建築家さんたちの存続プロジェクトの方々が仰っていました。何とかして存続しようとしなないのは道民への裏切りです。税金を返してください。

世界有数の豪雪極寒の地である北海道が今やアジアを代表する富豊の地になったのは、明治2年の開拓使の発足、3県時代を挟み、150年にわたる北海道庁の功績、なにかんづく道庁職員の皆さまの先輩たちのご努力があり、北海道百年記念塔はそうした先達の功績を讃えるモニュメントでもあります。それを今解体するということについて、今日、ご出席されているみなさま一人ひとりからご感想をいただきたい。

どんな建物でも長い歳月を考えれば落下を100%防ぐ事はできません。茶番の説明ですか。

大阪の万博の太陽の塔はきちんと文化財指定して保存しています。百年記念塔は文化財指定出来ない理由は無いと思います。

北海道開拓者及びアイヌ慰霊碑を解体するなんて、道職員は誠に公僕の恥。明治維新からの開拓功労者に何と言いつけるのか。

高橋はるみ前知事が積極的に解体を推進。メンテ費用を全く掛けず。

説明会資料の12から14ページにかけて今後50年の維持管理の調査結果を示していますが、ここで述べられている「設計・施工の専門業者」は同時期に行われた百年記念塔解体工事の実施設計の受託業者と同じです。解体設計が実際に進行する中、解体を担当する業者が示す維持管理計画にどんな正当性があるのですか。

高橋はるみ前知事と鈴木知事のお考えが大きいと思いますが、その真意は何なのでしょう。

しっかり文字だけではなく、画像を用いてビジュアル的に節目してください。素人にはわからない表現が多すぎます。

説明会資料の13pにおいて内部大規模改修にエレベーターシャフト関連工事がありますが、14pのある「R5・R30のエレベーター更新費」に含まれず、それとは独立して50年間に3回繰り返される理由がわかりません。エレベーター更新と大規模修繕の経費内訳をお示してください。

落下物だって後付けのステンの水切り板を間違った取り付けによって起きたんでしょ。対策をとればいいだけでしょ。違いますか。

解体したい理由を述べて下さい。解体やむなしではなく、解体したい理由をきちんと説明しないと納得などされませんよ。

いいじゃん、その金額でできるなら維持してくださいよ。新しい建造物を建てたって毎年お金がかかりますよね。それとも新建造物は維持費ゼロですか。

つまり、初期の建設時から欠陥の塔だったという事なのでしょう。

塔の調査を依頼する時、どのようにして決められたのでしょうか。

tokusentai.jp、情報紙「特選隊」のHPに道見議員と北海道の議会でのやり取りを載せている。「記念塔は平成11年の大改修で健全な状態を維持していると外部に委託した専門家は評価した」、滝口議員「ではなんで壊すのか。」「老朽化（健全な状態でないの）で解体する」。ウソつけ！ばかやろ、意味不明だろ。日本人を相手にしてんだぞ。なめるなよ鈴木直道知事は夕張を中共に売っただけでなく北海道を売ろうとしている。

北海道は美術的価値のある建造物一つ、守る事ができない。厚別、江別は魅力の無い街になってしまう。

維持費はケチっちゃダメだと思います。

平成30年の台風で、1.5メートルの金属片が落下したとの話がありましたが、それが公表されたのが令和2年。それが本当なら、当時ニュースで大事(おおごと)になっているはず。なぜ報道しないで隠していたのですか。

金額だけの問題ではありませんよ。道産子としての誇り、先祖への感謝の気持ちを踏みにじられている気がします。不愉快甚だしい。数字を羅列しないでください。

こんだけ経費かかってめんどくさいからからぶっ壊しまーす。って言っている様にしか聞こえません。

維持費は、きちんと予算取って修復して下さいませ。

これだけしか違わないなら「残す」一択だろ。

道民の方でこの説明会あること知ってる人なんてごく僅かですよ。もっと広く告知することを道民の一人として望みます。

様々な観点から検討して、解体に反対です。

井口健さんを見捨てているようですが、道庁は功労者を称えないのですか。井口さんは老朽化してないと話されていますし、解体される理由はないと仰っていますよ。道庁はこの方の意見や解体の必要がないと言っている建築家たちの意見を聞かないのは何故ですか。

北海道開拓博物館で、開拓に関する展示物を全て撤去。新撰組で有名な永倉新八の書状を撤去しました。百年記念塔を解体。最終的には北海道開拓の村の解体ですね。

説明会資料の15ページで「これらの方法についても検討を行いました」と述べられていますが、これらは、いつ、どこで、だれが、どのようなフレームで行った検討ですか。プロセスをトレースしても15pにある検討の場を発見できません。非正規な雑談レベルではないですか。記念塔の「歴史的・文化的価値は否定しない」というならば、コルテン鋼という希少な外板を使用した大規模モニュメントであり、建築や構造、鋼材、建築史、文化財保全などについて知見を有する専門家による独立性の高い諮問機関を正規に設けるべきではないですか。

解体が決まっている上での説明会という印象ですが…なんだか驚くことばかりで戸惑っております。

新建造物でも多額の経費がかかるから理由になりません。

高橋はるみ前知事が決めたからと言っても鈴木知事は覆せば済むことですよね。開拓民への敬意や歴史文化を繋ぐ気があるならそうすべきですし、しなければいけないです。

しかも跡地の新構想まで描いているのは順序が逆ではありませんか。こんなやり方を認めるわけにはいきません。非常に非常に非常識。

コレを実現しないと支那に怒られるのですか。アイヌ協会が許さないのですか。誰に脅されているのですか。

単純に北海道百年記念塔の設計を井口先生に依頼して、50年後には解体する上で町村金吾さんが伊藤組さんに発注したとはどうしても思えないです。

この説明会での道民の声をパネルにでもして道庁の一角に一定期間展示するなどして、もっと現状を周知させて下さい。

ソーラーパネルを導入する＝北海道はジェノサイドに加担する気ですか。

私もソーラーパネル設置反対です。今期の大雪あってパネル設置しようとする意味がわかりません。

ドーコンさんに解体を依頼する前に伊藤組さんに維持に必要な経費を再試算お願いしたい。

残せばこんなもの作らんでええがな。

覆せば良いとか、国立施設の費用を使うとか、現知事がどうのとか…話しの本筋に合っていない気がします。

平成22年より大規模修繕がされていません、この時から解体を決定していたのですか。リーマンショックや東日本大震災がありましたが、このような惨事を利用して解体を進めようとする「ショックドクトリン」としか思えません。

今現在、十分多様性を認めている土地なのに、更にイチャモンと言える「ボクたちのかんがえた多様性」の強要は認められない。

花フェスタ2014って既に行っている事じゃないか。

建築技術等の質問ではないのですが、北海道庁は北海道の開拓の歴史や野幌森林公園の設置意義、また百年記念塔の事を教育現場でどのように伝えてました。また北海道の観光関連の現場に百年記念塔の事をPRしていたのでしょうか。それらがかけていたらちゃんと維持するという意識はもたらなかったように思えますが。

コストだけで先人の遺産を解体するのは非常に疑問です。開拓100年を記念して建てた塔。一度壊してしまえばその歴史、先人たちの思いは戻って来ない。文化財的価値をどのようにお考えですか。

当時、道民からの寄付金半分が入っているが、大半は企業からとこの説明書はしているが虚偽。大半は個人献金。個人献金で現在価格にして30万円以上も献金された方もいる。道は当時の献金者に賠償プランを明確に説明する責任がある。

当時の維持管理費、年間800万円は継続的な維持管理をしようとは思えない値段です。当時、持統を道は諦めたのではないのですか。百年記念塔を解体し新百五十年の建設を高橋はるみ知事と伊藤組土建は考えていたのではないのでしょうか。

解体の費用は本当か嘘か知らないけど、算出してますが、残した場合の価値は出さないのですか。

新しいモニュメントを作ったところで維持管理費は発生します。現行の百年記念塔の維持が良いと思います。

「設計者の井口様に対してましては、記念塔の現状ですとか、議論の経過を丁寧に説明」したというが、私がこの件で道に出向いたのはこの5年で4回ほど。初回で意見を申し述べたが、何一つ質問も、意見交換もなく、ただ聞き置くだけだった。有識者懇談会について会議など必要があれば、いつでも来ますので連絡を下さい、と話したが1度も連絡なし。2度目に塔の現状として説明を受けたとき、資料として見せられたのは啓成高校の学校新聞だった。最後は空間構想ができたというので、年末に見せられた。概略を聞かされた後、「何かありますか」と聞かれたが、今更何も言うことはない、と答えた記憶がある。丁寧な対応ではなく事務的かつ一方的な説明だけだった。

誰もが納得していないことを強行するのは社会主義国か共産主義国のやり方だろう。民主主義と言って選挙をしたあとこのようなことをされたら国民はどうしたらいいのですか。

平成30年4～6月に行った施設利用者に対するアンケートでは、存続してほしい声が59%ありましたが、道民の解体への意見は反映されていないとのことでしょうか。

新たなモニュメントの予算はどの程度ですか。

「記念塔の内部の現場もご覧いただいたということがございます」と説明したというが、事實は、伊藤組土建に塔を見せてくれと要請したところ、現場に呼びもしない道とコンサルの職員がいたというだけであって、道に招待されたものではない。内部を見たいと要請したが、鍵がないから入れない、そんなはずはない、の押し問答の末、ようやく中に入れてもらった記憶がある。もう1回は「考える会」との同行で、これも道から直接招かれたものではない。

鈴木知事から道民に何度も何度も説明をして頂きたい。

解体に至ったいきさつは、日本人は北海道の侵略者だ解体。

新たに整備しようとする「百年記念広場（仮称）整備事業」にいくら予算を掛けるつもりなのか。現百年塔の維持費が掛るとから解体と云いながら、新たな整備事業にお金をかけるのは矛盾するのではないのでしょうか。

何故鈴木知事はいらしていないのでしょうか、こんな大切なことなのに…。

「記念塔はその構造上雨水の浸水を完全に防ぐことや、これ以上の排水対策が難しく、錆の発生や剥離を完全にふせぐことができない」とのことだが、構造上とはどういう意味か。完全閉鎖空間でないゆえに当然若干の浸水あるだろう。問題はその程度である。雨水の浸水がどの程度か。平成29年調査報告書を入手したが、物理調査の痕跡は無かった。雨水の浸水が問題というなら、湿度変化等の計測データを示すべきである。錆片の下落があるというならその発生記録、老朽化が進んでいるというなら不具合箇所検出と修繕実績の記録を示すべきである。

北海道百年記念塔を作られた意義を無視して解体解体と言う道庁さんに不信感しかありません。なぜそんなに解体したいんですか。錆、水漏れは限定的と言う話も聞きますが、おかしいですよ。

北海道百年記念塔は柴田拓二先生が示された維持管理指針に基づいて管理を行っていけば、健全性は保たれるのである。平成23年に策定した4次計画は平成33年までの管理計画だが、この計画通りに継続的に維持管理は行われているのか。4次計画に基づく維持管理の具体的実施内容について示してほしい。

井口健氏は本当に被害者ですね。一級建築士、世界的なデザイナーを愚弄してますね。北海道の決定は本当に恥。

公的な場所は、時の知事の都合でばっさばっさと切られるのでしょうか。

鈴木知事は何故説明しない？この人よりはマシなのでは。

新しいモニュメントの建設費や維持費はいくらぐらいでしょうか。

てか、解体自体知らない人の方が殆どです。高齢者はネット環境に適應できない人も多い中で、高齢者への無配慮ですか。ネット環境ない人は無視ですか。

この建物はどんなメンテナンスをしても無理ということですか。そんな馬鹿な話はないですよ。

新建造物を作って、将来負担減るんですか。嘘つかないでください。

百年記念塔も夕張並みに棄損するつもりなのか。

解体の賛否はきちんと公報のうえ道民どさんこの意見を求めるべきと思います。

難しい単語をいきなり話されていも分からないのですが、後で全部聞き直せるようにしてください。

こんなzoom説明会、高齢者がどうやって受けれるんだよ。コロナ禍にこれが道の言う多様性ですよ。

将来世代に残さないことが負担を増やすことになるんです。

構造材まで老朽化しているかどうか、新日鐵住金の調査結果の黒塗りを外しないと、わかりませんよ。個人情報といいますが、誰の個人情報ですか。責任ある方の調査ではないということでしょうか。

私達は、昨年クラウドファンディングを行い、新聞に意見広告をしました。518人、560口の寄付金を頂きました。この事を、道はどのように捉えていますか。

1. 1980年から、建築学会の管理計画が10年毎に行われてきましたが、2011年から、D社に委託されました。学会が外された理由はなんでしょうか。
2. 2017年「記念塔維持管理計画策定業務」を6社の指名競争を行い、予定額8,278,000円を、250万円で、D社が落札しました。この金額は正当な金額でしょうか。
3. 2020年10月「記念塔解体工事設計」公募型プロポが行われましたが何社の応募がありましたか。1社でしたか。特定は、やはりD社でした。即ち、専門家はD社1社で2011から続いています。これは異常な関係と思います。建築には、幾つかの団体があります。第三者を入れるべきと考えますが、お答えください。また、2020年の報告書は、2017年の報告書と同じ内容で、単価を入れ替えただけで、1,100万円の設計料とは、どの点が反映されたか、御提示下さい。

交流空間構想では、解体後（発展的継承）としての新たなモニュメントを中心とする賑わいある広場を整備する、とあります。これはどのようなものか。どれだけのコストをかけるのか。提示がありません。これでは解体ありきで、保存との比較ができません。順序が逆ではありませんか。

日本人が護るべきは日本の歴史、文化、伝統です。この三点を、もっともらしい欺瞞に満ちた調査により、切り捨てる判断を取った事に対する責任者、そして鈴木知事の面持ちをお伺いしたく存じます。

有識者とはどんなメンバーですか。名前を公表して頂きたい。

文化財指定の登録をまたやればいいじゃないですか。普通何度も通すために出しますよね。

専門的知識をお持ちな方もおられるようで、改めて解体ありきで話が進んでいることが分かります。アイヌ系の知人が言っていました。新たな差別を作る為に百年記念塔は解体しなければならないと。後世に金銭的負担よりアイヌ系の方々との軋轢という、あつてはならない負の遺産を残すこととなります。どうか解体を思い止まってください。

「取り返しのつかない」決断は、そんなに簡単にはいきませんよ。

1. 管理計画について質問します。1980年から建築学会で行われてきましたが、2011年から民間委託となった理由を答え下さい。
2. 百年記念塔維持管理業務について質問します。2017年10月の指名競争入札の落札金額は妥当だったでしょうか。予定額と落札額に大きな乖離がある理由をお答え下さい。
3. 百年記念塔解体工事設計業務について質問します。こうした場合、公共の第三者機関である各建築団体に協力を依頼することをしない理由をお答え下さい。

想定質問以外もしっかり回答してください。

私はzoomを使いこなすのに悪戦苦闘して途中からやっとならチャットできるようになりました、こんな老人に難しい説明会ってひどくないですか。

すべての質問が存続を求める意見のように拝見出来ますが、この説明会での参加者の賛否を確認してはいかがでしょうか。定量的なデータが全く見えない。恣意的な判断が行われていると思えます。

解体やむを得ないなら、見積もりの計上はできないですよ。30億円なら有形文化財登録申請でカバーできますよね。

幕末、明治維新から続く開拓功労者になんと説明するのか…島義勇、岩村判官、西郷従道及び屯田兵、数多くの開拓功労者の慰霊碑を破壊します、ってはつきり言えや。多様性とか濁して使うな

道の所有する建物で「構造上、完全に老朽化しない」建物を教えてください。

まずはこの音質不良について説明してください。

平成23、25年の調査や解体実施設計を担当したドーコンは北海道庁舎免震化や北海道議会庁舎の設計者であり、業務上北海道との結ぶつきが強く、業務遂行にあたっては客観的な視点を持つことは難しいと思います。客観的な立場にある建築学会に改めて調査を依頼し、客観的な視点での見解を得たうえで解体の是非を決定することはできないのでしょうか。

利用者保護なんて聞いたことも見たことも無い。ただ立ち入り禁止にただけが策と言えるんですか。

道産子開拓の歴史はどう残すつもりですか。

解体はやむをえなくないです。そんな理由がまかり通るなら、全ての建造物は取り壊しですよ。エッフェル塔取り壊すの。それぐらい百年記念塔は大事な建造物なんです。理由は、ただのこじつけです

時間の割に将来への策が何も示されていない。

専門家の調査会はどのようにして決められたのですか。

百年記念塔はコルテン鋼で作られた塔です。もしかしたら、コルテン鋼で作られた構造物の中で世界一の規模ともいえると思います。その世界一ともいえるモニュメントを、なぜ観光の財産として活用するという考えは、道庁にはなかったのでしょうか。

こんな対応しかできないようでは、一事が万事信用できない。知事は北海道をどんな場所にしたのでしょうか。ただの場所ですか。

30億。新建造物の方が結果、将来的に負担じゃないですか。

だから具体的な策を教えてください。

HPを誰がそんなに詳しくみるんですか。私、町内会役員してますけど、つい最近知りました。

第1回説明会、第2回説明会での質疑応答・提出された意見を公開してほしい。もちろん、この第3回説明会でのものも。

回答を作成した、専門家の方の名前を公表していただきたい。

北海道開拓100年を記念して建設された北海道百年記念塔。しかもその半分以上が道民の寄付によるものです。公共のものであり、地域のシンボルでもある記念塔の解体には現代に生きる者として、先人たちの思いを十分に考慮し公明正大な判断が求められると思う。恣意的なものではなく、客観的なデータに基づく判断も必要であると考えます。

- ① なぜ現状復帰管理計画や維持管理計画が50年と超長期に及ぶものであるのか。過大に計上させようとしているとしか思えないのですが。
- ② その計画の中身が、単純な掛け算や重複計上も散見される。5年で全交換を行いそれを10回行うことも見られた。そのような改修工事が必要ですか。中身の精査を行ってますか。
- ③ 平成23年以降維持管理が放棄されたように見えますが、すでにその時から解体を決定し腐食等が進むようにしたのではないですか。

誰に操られているのですか。誰が主導してこの解体を進めているのですか。

ドーコンさんは参加していないのですか。

説明会に 解体を賛成してる人は居ないですよ。これが民意なのは。

いくら聞いても納得できる説明がなされないんですね・・・専門家が専門的な見地で返答する説明会の形態のほうがよくないですか。

将来への具体的な策も無いのに負担軽減とはいかに。

北海道開拓に携わった屯田兵の大半は後に日露戦争に従軍された。百年記念塔は北海道だけではなく近代日本の戦没者慰霊の慰霊碑でもある。不敬の極み。

この責任者は誰ですか。

説明会資料P2のアンケート数は人口に比して著しく小さいと思います。ワークショップ、出前講座での出席者数を公表してください。

過去に相談した専門家の氏名を公表して、その考えの概要も示して下さい。

この説明会で道民の解体反対の意見が考慮される可能性はあるのですか。無いのなら解体説明会ということですね。馬鹿にしているのですか。

将来世代の負担とは、どのような負担を言っているのか、具体的な負担を説明してほしいです。文化的価値は否定しないとのことだが、金額のことを述べるのであれば、今までは負担としか考えていないということでしょうか。

コロナが落ち着いたら、リアルの開催は必須であると思います。特にZOOMでは限られた世代の意見しか聞けないと思います。この説明会を持って住民への説明が十分なされたとお考えですか。

説明会での質問、意見は今後公開とのことですが、なぜ公開まで時間をおくのですか。丁寧に回答されているならば、すぐに公開されたほうが参加者の理解は深まると思うのですが

この説明会の参加された方の中に解体の賛同者は居ないのでは無いのでしょうか。

北海道百年記念塔を中心に札幌・江別共営のオートキャンプ場並びにフェス会場の設営などこの地域に年間を通して人を集める事業をしてはと思います。

道として、解体せずに利用していくアイデアを道民から募ることを検討してはどうですか。

立入禁止区域を設定した2014年、道は既に解体をするとの考えに意向していたのでは。

道議会の決定ですからね。自民党道議会が一番の戦犯ですね。道議だれも興味なし。町村金吾氏もあの世で嘆いてますね。

H22からパタッとメンテナンスに費用を書けなくなりましたね。そりゃと痛むのは当たり前の話ですが、メンテナンスを怠った道の責任はどなたがどう取るのですか。

先人とは誰の事を指していますか。

是非、町内会ごとに説明をしまわって生の声を聴くべきでは。

年間800万円の維持管理費から、年間6,000万円に至る経緯を説明して下さい。

来年からも気候の変動で今年の様な豪雪がやってくるようになるでしょうが、そんな中にソーラーパネル置いても、破損するのがオチでしょう。良くて雪にうずもれる。なぜそんな無駄な事をするのですか。

私は賛成しております。現知事が決定した訳でもないですし。覆すのは容易でもないですし。では何故、10年スパンの修繕で良かったものがコンスタントに修繕せねばならなかったのか…。井口さんのお話しも本来と話しとは異なる。説明にはなっていないと思います。

早計過ぎませんか。このような大切なことは、鈴木知事を交えて、今一度話し合いたく思います。

1、2、3回の説明会をYouTubeで公開して下さい。

周知しないからこの説明会の存在自体知らない道民が多い。

コルテン鋼の耐用年数の200年ぎりぎりまで保全して、開拓の思いを宇宙開拓につなげるための「宇宙エレベータ」として、記念塔のデザインのまま大きいものを作る構想くらいあってもいいですよ。

この記録を紙だけではなく動画の公開を強く望みます。

YouTube公開して下さい。

賛成です。youtubeお願いします。

You Tubeで公開、賛同します。ぜひお願いします。

聞き取れないので動画アップしてください。全部の質問にも時間外でいいから声で答えてアップしてください。

必ずYouTube公開して下さい。

秘密の説明会にせずにYouTube公開を。

音声が悪く何を話されているか聞き取れません。質疑回答はきちんと活字にして道民に周知することを希望します。

新しいモニュメントや広場整備には国の支援や補助、PFI、クラファンなどの民間資金やノウハウを最大限活用するのに記念塔の維持管理には活用できないのはなぜでしょうか。また、赤れんが庁舎はメンテナンスして維持していますが記念塔との違いは何でしょうか。現状の記念との状態がかなり危険と判断している割には現場はロープ1本で立入禁止としているだけです矛盾を感じます。また、漏水がかなりあるようですが夏型結露の影響が大きいと思いますがいかがでしょうか。夏型結露の解消にはさほどのコストはかからないと思いますがいかがでしょうか。新たなモニュメントの費用も明かされていませんしそのモニュメントの維持費用もわからないので比較しようもありません。維持管理費用の算出根拠も疑問符が付きます。

北海道職員はこの説明会に参加していませんか。

専門家が言えばなんでも通るんか。

道の予算の中で将来世代の負担について様々な考えがあります。モニュメントも金額だけを考えれば将来世代への負担となりますが、百年記念塔と新モニュメントとの違いは何でしょうか。

百年記念塔の解体の周知はどの様に行い賛同していますか。何人の調査で何人の賛同が有りましたか。

なぜこれだけ疑問のある北海道百年記念塔解体に道庁職員や道議会議員は疑問を持たないんですか。ご先祖さまはいないのですか。

説明資料P3の「開拓の村」の今後の方向性の記載について質問します。「観光拠点古民家再生等人材育成拠点」とはなんですか。そもそも日本語としてまったく意味不明と思うのですが。

要は、金にならない記念塔を解体し、解体費以上に費用を掛けた新構想でビジネス展開し、商業施設として利用しようとお考えでしょうか。功利主義に則った場合はもつともですが、我が国は地政学的、または歴史的にも保守思想が大切にされてきました。お金では現わすことの出来ない伝統、文化としての価値を軽視し、躊躇なく破壊しようとする道の態度は、明らかに我が国の国柄とは相反するものであり、欺瞞に満ちていると言わざるを得ません。50年後、100年度の未来、歴史に断罪されるような愚行はお控えいただきたく存じます。質問といたしましては、今後の建設的な議論を深める場所や機会を設ける、または増加する見込みはおありであるのか、ご教示願います。

アンケート、学生向けと一般向けで質問内容を変えたのはなぜですか。

水に弱いコルテン鋼を使いましたが、水が溜まりやすい構造の鉄骨トラス構造に変更したのが原因ではないですか。百年記念塔は当初から欠陥の塔なのですか。

むなしい、いまだに町内会や町連や地域の学校や商工会に説明しましたかとか、、、説明もお願いも命令も、、、勘違いだ、、、乗っ取られた行政は北朝鮮思想や共産主義者の通りにされるんだ、今回は「老朽化」の言い訳で解体。

道民の声を聞いてませんよ。

質問、順番通りにはやらないんですね。答えられないのを後回しにして時間来るのを待っているのですか。この苦痛な説明会を道民の皆さんにも知ってもらう必要があるので絶対にYouTubeで流してください。

これで20時30分、時間となりましたので終了します、となるのかな。中断した分はしっかり時間延長してください。

聞き取れない説明会では開催実績と言えないのではないのでしょうか。

まだ決定では無いのですね。

この説明会の開催の意義がわかりません。少なくとも説明会の参加者は解体賛成意見は無いですね。

法律に詳しい方、執行の停止を仮処分申請して欲しいです。道の暴走としか理解できない説明会でした。

本当の解体理由は6年前の日ハムの千歳空港の「北海道は開拓者の大地」の撤去と同じ構図ではないのでしょうか。

良くわからず説明会に参加させていただきましたが、内容を知れば知るほど、不信感がつのりました。長年北海道に住み大好きな北海道が壊れていく感じがして悲しいです。

安全確保が難しいなど嘘を言わないでください。

説明資料P4のモニュメントについて質問します。「未来志向に立った将来の北海道を象徴する役割を担うもの」とあり、先人の開拓の苦勞をしのび、感謝し記念するという現在のものとはまったく性格の異なるものにするというのは、エリア全体の構想に反するのではないですか。回答を望みます。

そもそもどんな維持管理をいままでしていたのでしょうか。

安全とか莫大な費用とか将来の負担とか言えばみんな納得すると思ったら間違いですよ。

私達建築家有志は、2020年より3度の公開質問状を知事宛に提出しました。危険だ。金が掛かる。交流空間構想に基づく。の一辺答でした。同年6月建築家10数名で塔内の視察を行いました。「塔は健全」「外皮は熟成」でした。大改善は不要で10年単位の現状維持維持管理費用を使用して半径50mの侵入防止安全策（公園化）を提案しましたが、回答は得られませんでした。同時に10階以上の内部視察も要求しましたが、回答はありません。不思議です。

道産子道民の意見をきちんと聞いてください。少なくとも、この説明会には百年記念塔の解体賛成者はいないです。

「北海道百年記念塔広場の整備等に関する説明会」に、記念塔解体賛成派がいなかったという事実は重く受け止め、しっかり発信してくださいね。

今生きる人達には子孫に恥ずかしくない行動が求められてます北海道百年記念塔解体は先祖様を冒瀆し子孫に恥じる行為だと思うのですが。なぜ出来ることをして北海道百年記念塔を子孫に伝えようとししないのです。

S45年からH28年までにかかった百年記念塔の建設費と補修費の合計は約13億7千万でした。一方で2020年度の除排雪費は約220億円でした。必要とあれば春になれば融けてなくなる雪のためでも多額の費用をかけます。当初、「高さも量感においても雄大な記念塔を建設する。」とその設置目的に謳われてつくられた百年記念塔はそれほど価値のないものだったのでしょうか。

当初の設計ではモノコック構造にするはずが、水に弱い鉄骨トラス構造に変更した理由がそもそも原因ではないですか。

コルテル鋼の特質も良く知られていない中で、老朽化を印象づける説明は誤解を招くことが、この説明会でもわかりましたね。

この状況を見れば関心のあるこの参加者は解体慎重若しくは反対の方々が殆どだと思います。これをマスコミの方も見ているならばこのまま道民、国民に発信して下さい。

先日も百年記念塔へ行ってきました。危険と言う割には立入禁止の看板とロープ一本でした。また掲示板には解体という説明はありませんでした。言うなれば危険性が薄く、解体は道民に知られたく無いということでしょうか。

今なお未完成である井口健さんの設計構想を、しっかりと予算を付け完成させるのが、真の意味での新構想ではないのでしょうか。

井口健さんが記念塔ファンでおっしゃられている通り、風雪100年を念頭に建築設計されて建っているのだから、今から普通にメンテナンスすれば十分あと50年は問題ないのではないですか。なぜそれをずっと前からメンテを中断したりしていたのでしょうか。メンテナンスをやらない理由は何だったんですか。答えて下さい。

繰り返しますが、今回は井口健さんが参加されております。井口健さんの想いを無視して作られたこの新構想、許せますか。

素朴に子どもの頃から散策や遠望の目印だった、まさにランドマークの価値はお金には換えられないと思いますよ。

無くす方が将来に負担を残す。

パブリックコメント、住民意見、有識者懇談会等の存続意見は黙殺されていると思います。存続意見に対してどのように真摯にご説明されたのかをご教授ください。

いや、負担はさせられてもメンテしていなかったですよ。

維持管理費で50億。

ちゃんとメンテナンスしなかったから50億かかるんじゃないの。

塔は健全です。今求められてるのは、コロナ対策です。そちらに、7億2千万円を回すべきです。

解体ありきで故意にメンテナンスしなかったのでしょうか。

維持管理費は負担ではない。

維持管理50年で30億、年6,000万の費用負担が将来世代の金銭的負担とは到底思えませんが。

ここ近年の百年記念塔の維持費に激減に対する説明をお願い致します。維持費をかけていなければ損傷が拡大するのは当然です。管理者の北海道知事の怠慢をどさんこ道民に押し付けている構図と思います。

メンテ請け負った業者と解体見積もり出した業者が同じって何なんだ。新車買わせるために「もう修理無理ですね」というディーラーと同じやり方じゃないか。

そもそも無理がある説明会だが、それでもこれだけの方々が生懸命質問を打っているのだから、時間を過ぎても全部に答えて文字起こしして道庁のHPに一定期間載せて下さいね。

コルテン鋼は水に弱く、後に塩分に弱い事が分かりました。設計者の井口氏は、コルテン鋼の百年記念塔を塗装せず、裸のまま設計しました。錆がコルテン鋼を覆い腐食を遮るからです。しかし、初期のモノコック設計ではなく、鉄骨トラス構造に変更しました。設計者の井口健氏は、その事情を知らされていませんでした。鉄骨トラス構造は東京タワーなどに採用されていますが、水が溜まる構造になります。東京タワーは5年に一度、一年を掛けて大規模な全面塗装工事を実施しています。

今後50年で28億円で塔が維持されます。モニュメントや太陽光などであれば、28億かからないのことでしょうか。単年度で7億2千万かかります、それは負担ではないでしょうか。

校歌の歌詞になって人々の思いとともにある。かかけがえのない価値があると思うのですよ。

常識的に考えて、解体して新たなモニュメントをつくるなら100億いじょうになるだろうな。アイヌと同じで意味不明で金は数百億円。

高橋はるみ知事時代から、メンテナンスを怠っていたのは明白ですよ。グラフはうそをつかないですよ。

何度も言いますが、解体するかどうか考え直しても全然問題ないと思います。強行する理由が全く分からない。

時代は流れて考えも変わる。構想から6年経てば保護保守の考えに変わるのも自然の流れと思いますが。なぜ解体ありきなんですか。

百年記念塔は当初から欠陥塔だった可能性はないのでしょうか。

質疑内容を公開する予定とのことですが、公開時には今回説明会に参加者へは公開したという情報を流して（メールで連絡）いただけるのでしょうか。

繰り返しますが、解体するか否かは有形文化財の申請を行い、審査を受けてから検討すべきではないのでしょうか。

井口健さん抜きに新モニュメント構想を決めるのは暴力的としか思えません。設計当初の構想を完成させるのが筋です。

チャットに書き込まれる質問から選び、答えようとする姿勢は見えるけど、音声が残念です。

これ、ライブでやる意味あるんですか。対面が出来る時期まで待ってやり直さないと、参加者は一方通行で納得できないです。

このまま解体が進むことは、絶対に避けてほしい。鈴木知事にも参加していただきたいです。そして、直接伺いたい事がたくさん出てきました。

ここ近年きちんと百年記念塔の維持費を確保していなかったのは明らかです。維持管理していかった理由は。逆に維持管理していなくても大きな事故は無かった。逆に百年記念塔は問題無かったという事では有りませんか。

将来負担を軽減するなら、国の支援・補助制度やPFI、クラウドファンディング等の民間の資金・ノウハウ等を最大限活用すればよいとは思わないのでしょうか。

最低限、有形文化財の申請にチャレンジしてから判断してください。

コルテン鋼の安定の要件に「適度に乾燥」と言うが、北海道に梅雨は無いし、じゅぶん乾燥する。中にプールでもなければ数日有れば乾燥する。理由がおかしい。

本説明会についてどのような報告、報道が行われるのか、しっかり監視する必要があります。

ウポポイが既に有るので開拓のモニュメントのみにすべきと思います。アイヌは先住民族ではありません。日本人です。

地元ローカルでやっていたけど、多数が取り上げない事に問題があるのであって、いきなり出てきた訳でも、隠蔽していた訳でもない。

時に政治も誤った判断をします。一度決めたから突き進むしかないのではなく、再検討することも必要です。再度検討することをお願いするのみです。それが透明性の高い、客観的な判断をできる検討委員会であることを望みます。

YouTube公開のぞみます。

鈴木知事は誠意ある回答を。

3回分の議事録待ってます。

百年記念塔の北海道開拓の物語をなくしてはいけません。

解体が決められた事を知らず参加し、驚きしかありません。ショックです。

先人産子道民の偉大な開拓の歴史の偉業を消すな。

賛成派は後世に納得できる説明できるのですか。信用されたいですよ。説明できないなら。ココにも残ってますし。

北海道百年記念塔存続を心より祈ります。

北海道の職員や利権屋の為ではなく、後世を引き継ぐ北海道そして日本の子供達のことを一番に考えて欲しい。そこがスタート。だから今からでも考え直してほしい。

台風による落下物の報道が、当時全くなかったのに。数年たってからいきなり道が公表する。なぜ隠ぺいしていたのですか。

平成22年から安全確保を怠っていた姿勢について、コメントをお願いします。

どこに公開。

後日。いつ。

いつまでに回答するんですか。

てか、質問のいくつかはマイクの不調のせいにして回答していませんよね。

一番の疑惑のある説明表現として、先人とは誰の事を指しているのか。

このような説明会の開催に御礼申し上げます。

解体の結論ありきの無意味な説明会にとりあえず参加してみた。無駄な時間に

取り壊し・解体は反対です。

多様性という言葉を聞くとうさん臭さを感じます。

鈴木知事の問題ではなく、当時の高橋はるみ知事の問題だと思います。

あと、ジェノサイドソーラーパネルは絶対に反対です。

鈴木知事は解体推進派ですね

北海道百年記念塔H45ーR3建設及び修繕費の棒グラフ、金額をそろえて知事の在任期間を追加したものを展開しますね。道の資料は印象操作ですので。直しました。

提供された資料は大切です。保全予算の減少傾向が一目瞭然です。

新構想の説明は今はいらない。不愉快だ。

いらないな。

これらの質問を読み上げている方は、これらの質問をどのように受け止めているか、個人的感想を聞きたいですね。

どうしてお互いの会話すら出来ない説明会をやるのでしょうか？これなら録画したのを流すのと同じですね。ミュート解除出来ないとか、来てみてビックリです。住民説明会って当たり前じゃないのですか？

新たなモニュメントの予算はおおうそ。

このまま進行するのでしょうか？ 何故質問に答えないのでしょうか。

真摯に受け止めて…。

ガス抜き、自由に意見を言ってください。それで何も変わりませんが。

今回の説明会には全く関係ない話題です。

それが設計不良です。

新建造物いらんだろ。井口健氏にどれだけ失礼なんだよ。

何をいってもダメだな…糠に釘ってこういうことを言うんだな…

知事は北海道を売るのではなかった、あげようとしている

あなた達は取り返しのつかない事を実行しようとしているのですよ。

北海道文化局は文化保存啓蒙の為に何もしてないですよ。

今回の住民説明会は、井口健氏も参加しています。

もう話しにならん。老朽化なら記念塔より古いものを全部壊せ。

じゃ、旧道庁だってそうだろう。

議会で解体を決めた、道民には文句を言わせない、ならば、議会で撤回してもらうほかに道はない。

司法に委ねるしかないのか…。

謝罪と賠償だ。

茶番そのもの。

道の説明会は、関ヶ原吉川広家の手弁当並の茶番だわ。

北海道は日本でなくなる日が近づきます。

記念塔の次は、歴史的資料のカイザン。

今私達が質問していることに答えるのではないの？

井口健さん抜きでの北海道百年記念広場の構想、ひどいですね。

私の家には広報ほっかいどうは来ません。その存在も知りませんでした。広報さっぽろは毎月とどきますよ。

北海道百年記念塔ファンで公開されています。

大きくは責任者は鈴木知事です。

わざわざ作らんでもええわ。

それは現在の北海道博物館で十分にやっていらっしゃるかと思います。

みなさんは北海道の人ですか。日本の方ですか。

変な意味のものを作らんで。

画像のファイルを送りますので、皆さんDLしてくださいね。北海道百年記念塔の、去年までほったらかしにされた白紙の地図です。

道民の声。聞くわけないだろ。ばっかじゃないのか。

メンテナンス不十分だから日焼けして色が抜けていますね。

この認識は違います。コルテン鋼の経年変化の色です。日本製鉄のホームページをご覧ください。
<https://www.nipponsteel.com/product/plate/list/04.html>

解体賛成派です。

解体賛成の理由はなんですか。よろしければご教示ください。

私は「殆ど」賛成派がいなかったと書く必要がありましたね。大変失礼いたしました。

賛成異議なし。

鈴木なおみち知事がトドメの決定。

ジェノサイド北海道になる気ですか。

北海道の文化局に対して集団訴訟ですね。

正に支那のサイレントインベーションじゃないですか。

将来世代は負担をすくなく支那人として生きるのか。

マスコミの方がこの状況を纏めて発信してくれたらその局や新聞社は信用します。出来ないと思うけど。

それは一般に設計不良と言われます。

まずは設計不良を認めませんか。

5Gは要らないです。

貰い錆ってやつだな。

知事は過去のパンドラの箱を開けたか。

賛成です。

役所が売国奴、となったら、どこが売国奴になったらいいんだよ。

明日の報道が楽しみです。

ずーむはアリバイ

納得いきません。

これから道の対応を注視します。

百年記念塔は設計不良の塔だったか。

公開をお楽しみに。

悲しかったです。

何も得られなかった。

報道等をしっかりチェックしましょう。

グダグダ。

声をあげましょう。

報道機関も注視します。

とにかく何が出来るのか、この一点に集中し出来る事をやりましょう。

北海道開拓百年記念塔解体反対。

賛成の声はなかったのですね。

絶対反対。

北海道開拓百年記念塔解体反対。

北海道百年記念塔は北海道だけの問題では無いです。ここが解体されたら日本中で色々な歴史改ざんが行われます。

#北海道百年記念塔を守ろう
#北海道百年記念塔解体反対

明日から毎日「北海道文化振興課」のサイトをチェックする生活が始まる orz。

先人は過ちも含めて北海道・日本に関わった世界の人々すべてだと思います。